

もどくからやきて

県立工業技術センター

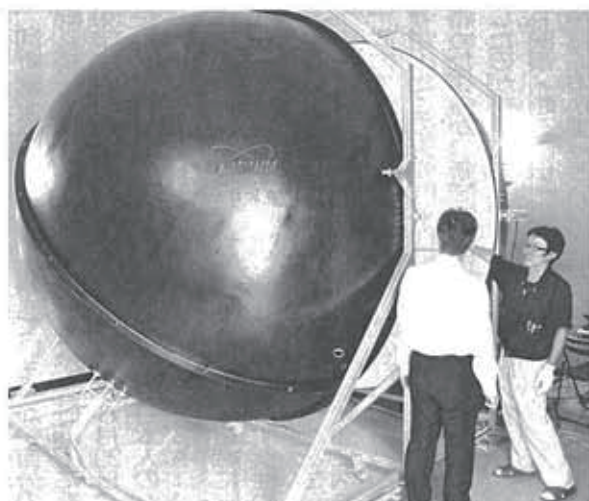
＝下＝

徳島県立工業技術センター(徳島市雑賀町)の暗室に据え付けられた全長4・3メートルの大型装置。反射鏡が取り付けられた2メートルのアーチが、LED照明の回りをゆっくりと回転している。

球儀を大きくしたような直径3メートルの球体がある。内部にLED照明を設置し、全方向に放出される光の強さを測定する「全

これらの装置はいずれも、2011年7月に策定された県の「LEDバレイ構想」において、中心的な役割を果たしてきた。06年に専門のプロジェクトチームを立ち上げ、民間企業との共同研究開発を推進。09年にマシ

出出した「LEDバレイ構想」。センターは技術者の育成や先端技術の研究開発において、中心的な役割を果たしてきた。06年に専門のプロジェクトチームを立ち上げ、民間企業との共同研究開発を推進。09年にマシ



直径3メートルの「全光測定装置」は全国の公設試験研究機関にある装置の中で最大。県立工業技術センター

LEDバレイ構想

産業集積の推進役

「照明の光を鏡で反射させ、どの方向に、どれだけの強さで放たれているか調べている」。電子技術担当の中村怡主任研究員(32)が教えてくれた。照明器具の光の広がり具合を調べる「配光測定装置」の中でも、光源の周囲360度の配光を測定できる装置の導入は、西日本の公設試験研究機関では初めて。

光束測定装置だ。その大きさは、全国の公設試験研究機関が所有する同種の装置の中で最大。今ある蛍光灯タイプの照明で最長のものが2・4メートルから、ほぼ全ての照明器具に対応できる。

部長(57)は「LED関連企業へのダイレクトメール送付など、地道な情報発信が成果を挙げている」と手応えを口にする。

品化部門で環境大臣賞を受賞するなどの実績を挙げた。未来のLED産業を担う人材育成にも一役買う。中小高校生を対象に、研究員が工夫を凝らして作った教材を用いて

LED工作教室などを開いている。見て触れて楽しんでもらうことでも、評価体制の強化や販路開拓支援に取り組む。

Dのトータルサポート拠点を「LED製品」として、LED製品の魅力を伝える。評価体制の強化は、県内中小企業の製品開発や技術向上を全国有数の評価機能により支援する考

豊田本部長は「米国のシリコンバレーのように、LEDといえは徳島、というブランド構築を目指す。県内企業とともに全国へ、世界へ飛び出していきたい」と熱く話した。(湯浅翔子)

えた。冒頭の光学性能評価装置のほか、落雷・漏電への耐性を調べる「サージ試験システム」など安全性能評価装置3台を最短で12年中に導入する。販路開拓支援では、センター階のテクノプラザにLED応用製品の常設展示場を設置。センターに立ち寄った人がいつでも、最新のLED関連技術や製品と触れ合える環境を整備している。